

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 明和会	代表者	西川 雅浩	法人・事業所の特徴	当施設は、小規模多機能ホームの両側にグループホームがそれぞれ 1 ユニットずつ併設されています。裏手の中学校があり、生徒や町内の方との交流も積極的に行っており助けられる側の施設から、町内の方の力になれるようボランティアサークルの活動も活発です。
事業所名	陽だまりの郷	管理者	安藤 騰志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	0 人	0 人	2 人	1 人	2 人	4 人	0 人	11 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			個人評価に関しては、一人一人の勤務年数や考え方で、幅が出るのではないかと思う。 今までの外部評価は専門の方が行っていたが、今後運営推進委員の責任が重大になってくると思う	職員の意見の幅が出る時には、職員の考えを細やかに聞き意見を反映させる
B. 事業所のしつらえ・環境			地域の方が、イベントなどで来て頂いているが、当施設がどのような介護サービスを行っているのか等理解されていないのではないか。施設のサービスのアピールをしてはどうか 家族の方は入りやすいが、家族以外の方は入りづらいのではないか	施設を地域の方に開放し、気軽に立ち寄り、入居者様、利用者様と交流できるようなスペースを作り、身近に感じていただける様にする
C. 事業所と地域のかかわり			陽だまりの郷はどのような役割を持ち地域の中でどのような存在であるべきか考えなくてはならないのではないだろうか。 認知症の相談窓口の看板を出すなど工夫し、地域の方も気軽の相談できる場所になるようにしてみてもどうか	今後玄関などに認知症相談窓口の看板を作成し掲げるなど、困りごとがあった場合に頼られるようなアピールを行っていく

D . 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み			2、4については、地域の中でそれだけ求められるのか？が不可解である。地域の為に貢献をしなければならないが、近所の心配ごとに関わっていくには負担が大きすぎるのでは？	来年度も利用者さんが地域の中の行事などに参加できるよう積極的に支援を行っていく
E . 運営推進会議を活かした取組み			2の事例検討会に関しては、地域包括支援センター主催で行っている地域ケア会議で行っている 3に関しては地域の取り組みとしては今後も町内の盆踊りなどの行事参加を積極的に行ってください。	今年度もボランティアサークルを中心に町内で行う、植栽作業、除草作業、盆踊りなど町内の皆様に喜んでいただける様な活動を考える
F . 事業所の 防災・災害対策			避難訓練には参加しているが防災計画までは把握できていない。災害時に当事業所がどのようなサポート体制が出来るかを事業所で考えてみてはどうか	今年度の避難訓練時に、どのような防災計画を立てているかを皆さんに周知したうえで避難訓練を行っていく